



文化庁委託事業

平成 29 年度 劇場・音楽堂等基盤整備事業

全国劇場・音楽堂等 技術職員研修会 実施報告書

Seminar for
Theater
Technicians

全国劇場・音楽堂等技術職員研修会とは

全国劇場・音楽堂等技術職員研修会は、文化庁の委託を受けて、劇場・音楽堂等の舞台機構や設備を安全に管理・運用するために必要な、専門的知識や技術の習得を図るために、主に舞台技術管理者及び舞台技術管理責任者や担当職員を対象として、毎年実施しています。

本冊子は、その研修会の実施状況をまとめたものです。技術職員の皆様がそれぞれの職場で職務を遂行される上で、ご参考にしていただければ幸いです。

平成 30 年（2018 年）3 月 公益社団法人全国公立文化施設協会

平成 29 年度文化庁委託事業

「全国劇場・音楽堂等技術職員研修会 2018」

テーマ「舞台技術における課題と対応“改修・更新・安全”」

| | |
|------|---|
| 主催 | 文化庁・公益社団法人全国公立文化施設協会 |
| 目的 | 劇場・音楽堂等の舞台技術を統括管理するために必要な、専門的知識や技術の習得を図るための研修を行い、もって劇場・音楽堂等の円滑な運営に資する |
| 開催期間 | 平成 30 年 3 月 7 日（水）・8 日（木）・9 日（金） |
| 会場 | 宮崎県立芸術劇場（メディキット県民文化センター） 宮崎市船塚 3 丁目 210 番地 |



メディキット県民文化センター

| | |
|----|--|
| 対象 | <ul style="list-style-type: none">・劇場・音楽堂等の舞台技術管理者及び舞台技術管理責任者または舞台技術担当職員（指定管理者、舞台業務受託者に属する者を含む）・文化行政主管部局の技術担当職員・劇場・音楽堂等関係者、その他舞台技術関係者、舞台技術に関心のある者等 |
|----|--|

研修会日程表

| 日時 | 時間 | プログラム内容 | 講師 |
|-----------------|------------------|---|---|
| 3/7(水) | 12:20～ | 受付 | |
| | 12:50～ 13:00 | 開講式 イベントホール | 挨拶 (公社)全国公立文化施設協会 専務理事 松本辰明 (公財)宮崎県立芸術劇場 常務理事 兼 副館長 福田裕幸 |
| | 13:00～ 14:00 | プログラム1 イベントホール 基調講演 舞台技術者連合 設立の意義と今後の展開 | 講師：服部基 (株)ライティングカンパニーあかり組 顧問 |
| | 14:00～ | 休憩 (10分) | |
| | 14:10～ 15:40 | プログラム2 イベントホール 舞台設備等の改修・更新を考える | 講師：草加叔也 (有)空間創造研究所 代表取締役 (公社)全国公立文化施設協会 アドバイザー 右田幸司 東芝ライテック(株) システム事業部 システム技術部 システム技術第二担当 グループ長 尾崎美雪 東芝ライテック(株) システム事業部 アートライティング部 商品担当 |
| | 15:40～ | 休憩 (10分) | |
| | 15:50～ 16:50 | プログラム3 イベントホール 劇場等演出空間の運用および安全に関するガイドラインについて | 講師：小川幹雄 (一社)日本舞台監督協会 理事長 (公社)全国公立文化施設協会 アドバイザー |
| | 16:50～ | 休憩 (25分) | |
| 17:15～ 18:45 | 情報交換会 レストランレミューズ | | |
| 3/8(木) | 9:30～ | 受付 | |
| | 10:00～ 11:10 | プログラム4-1 イベントホール 舞台技術(創造)の動向①照明 | 講師：大石真一郎 (公財)神奈川芸術文化財団 KAAT 神奈川芸術劇場 舞台技術課照明チーフ コーディネーター：鈴木輝一 (株)ピー・フォー 代表取締役 (公社)全国公立文化施設協会 アドバイザー |
| | 11:10～ | 休憩 (10分) | |
| | 11:20～ 12:30 | プログラム4-2 イベントホール 舞台技術(創造)の動向②音響 | 講師：石丸耕一 東京芸術劇場 舞台管理担当係長 (音響統括) コーディネーター：間瀬勝一 小田原市文化部文化政策課 芸術文化活動専門員 (公社)全国公立文化施設協会 アドバイザー |
| | 12:30～ | 休憩 (60分) | |
| | 13:30～ 14:40 | プログラム4-3 イベントホール 舞台技術(創造)の動向③美術 | 講師：土屋茂昭 舞台美術家・舞台美術家協会副理事長 コーディネーター：小川幹雄 |
| | 14:40～ | 休憩 (20分) | |
| | 15:00～ 16:40 | プログラム5 演劇ホール ビデオプロジェクターの解説と デモンストレーション | 講師・コーディネーター：鈴木輝一 技術サポート：戸苅隆之 (株)エヌジーシー エンタープライズビジュアル事業部 課長 内田照久 (株)エス・シー・アライアンス メディアエンターテインメント社 COO |
| 16:40～ | 休憩 (10分) | | |
| 16:50～ 17:35 | プログラム6 施設見学会 | 案内：宮崎県立芸術劇場 び担当者 | |
| 3/9(金) | 9:30～ | 受付 | |
| | 10:00～ 11:30 | プログラム7 イベントホール 意見交換会、まとめ | 講師：小川幹雄 草加叔也 鈴木輝一 コーディネーター：間瀬勝一 |
| | 11:30～ 11:45 | 閉講式 | 挨拶 間瀬勝一 |
| | 11:45 | 解散 | |

〈基調講演〉

舞台技術者連合 設立の意義と今後の展開

講師 服部基

平成 29 年 10 月、推進団体 6 団体（下記参照）により、一般社団法人舞台技術者連合が結成された。これは、「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」の趣旨に基づき、「専門的人材の育成・確保及び職員の資質の向上」を推進するものである。

基調講演では、設立趣意書を軸にして、連合設立の経緯から意義、今後の事業展開について語られた。

現代の舞台芸術では、演出の要求、テクノロジーの進歩や観客の要望、世界的な舞台表現の流れなどに呼応し、さまざまな新しい表現が生まれている。一方で、地域の独自性・固有性を守り発展させることも必要である。また、劇場での事故や危険に対して、分野間の連携が不可欠であり、「創造」「技術」「安全」を熟知し専門的能力を有した舞台技術者が強く求められている。そこで、連合では次の取組みを行う。

- 1) 劇場に不可欠な知見を身に付けた「舞台技術上級専門員」を養成、劇場に必須の職能として啓蒙・普及を図る。
- 2) 「舞台技術上級専門員」の中からさらなる知識・技術・経験を有する者を「技術監督」に推薦し、劇場の活性化を図る。
- 3) 「舞台技術上級専門員」の中から人材育成に適した者を「舞台技術インストラクター」に選任、次世代の人材育成を図る。
- 4) 舞台上で働く全ての技術者が交流し、相互の職能に対する理解と親睦を深めるために加盟団体と密接な連携を図り、人材の養成・確保のために教育機関等との連携を強化する。

すべてはより良い舞台づくりのために——。これらの取組みに加え、広報宣伝活動を行い、劇場の活性化を促進し舞台芸術の振興に寄与するよう、連合としての役割を果たしていくことが宣言された。



服部基氏



推進団体

- 公益社団法人 日本照明家協会
- 一般社団法人 日本舞台音響家協会
- 一般社団法人 日本音響家協会
- 一般社団法人 日本舞台監督協会
- 公共劇場舞台技術者連絡会
- 公益社団法人 全国公立文化施設協会

(順不同)

服部基 (はっとりもと)

(株)ライティングカンパニーあかり組顧問

信州大学工学部電気工学科卒業後、1973 年 A.S.G 入社。吉井澄雄、沢田祐二の両氏に師事。1986 年、舞台照明会社(株)ライティングカンパニーあかり組設立。現在顧問。こまつ座をはじめ演劇、ミュージカル、オペラ、能の照明を手がける。1983 年「グレイクリスマス」にて日本照明家協会優秀賞受賞。1993 年「ロレンザッチョ」「四重奏」で日本照明家協会賞大賞受賞。1994 年～1995 年文化庁在外研修員として 1 年間ドイツにて研修。2008 年「コンフィダント・絆」「コペンハーゲン」「キル」にて第 42 回伊國屋演劇賞受賞。2008 年「コペンハーゲン」にて文部科学大臣賞・日本照明家協会賞大賞受賞。現在、公益社団法人日本照明家協会常務理事。

舞台設備等の改修・更新を考える

講師 草加 叔也
右田 幸司
尾崎 美雪

築後 30 年以上が経過している劇場・音楽堂等は全国で 47.1% を数え、^(*注) 大規模改修が大きな課題となっている。プログラム 2 では、ライフサイクルコスト (LCC) の考え方、劣化の 3 種類 (① 時間とともに初期性能が維持できなくなる経年劣化、② 時代とともに設備の機能そのものが新たなものに代わることによって起こる機能劣化、③ 時代の要請や利用者の要求が変化し、改善が求められるようになったことによる性能そのものの劣化を指す性能劣化) について学んだのち、改修の優先順位を考える上で重要な 4 つの方向性 (指針) を示した。続いて、中長期維持管理計画の策定や関連法令、過去の改修履歴整理の実例、改修のフローなどを紹介。改修・更新を実施する上で考慮すべきポイントについて整理し、改修・更新は、将来の活動や事業を見据えた投資と位置付けるものであることが示された。

後半では機能劣化のひとつの例として、舞台照明設備、とりわけ LED 化・移動型調光器の使用に焦点を当て、具体的な対策を知る機会となった。

*注 (有) 空間創造研究所調べ



草加 叔也氏



右田 幸司氏



尾崎 美雪氏



草加 叔也 (くさか としや)

(有) 空間創造研究所 代表、(公社) 全国公立文化施設協会 アドバイザー

劇場・音楽堂等の演出空間を中心に基本構想・計画から施設設計、管理運営計画 (指定管理者選定支援業務を含む) など劇場計画コンサルタントとして、「パトリア日田」「可見市文化創造センター」「国立劇場おきなわ」「兵庫県立芸術文化センター」「ミュウザ川崎シンフォニーホール」など各地の劇場施設づくりに関わるとともに、ピーター・ブルック、ピナ・バウシュなどの日本公演で技術監督として直接上演活動に携わる。1989 年、芸術家在外研修員 (文化庁) として渡英。現在、劇場計画コンサルタント/空間創造研究所代表として活動。

右田 幸司 (みぎた こうじ)

東芝ライテック (株) システム事業部システム技術部システム技術第二担当グループ長

1991 年中央大学理工学部電気工学科卒業、同年東芝ライテック株式会社入社。舞台・スタジオ用インテリジェント調光器盤、分散型調光器、LED 照明制御装置の開発に従事。1995 年「低騒音形白熱灯調光システムの開発」で照明学会全国大会発表。2009 年調光出力と直電源出力が可能な「ハイブリッド調光器の開発」で株式会社 TBS テレビとともに第 29 回日本照明家協会賞テレビ部門技術賞受賞。移動型調光器を採用した「長久手市文化の家」、「NHK CT-106 スタジオ」などを担当。

尾崎 美雪 (おざき みゆき)

東芝ライテック (株) システム事業部アートライティング部 商品担当

舞台・テレビスタジオ用ハロゲン照明器具の開発・設計を経て、2009 年より現職に従事。演出用 LED 照明器具全般の商品企画・開発に携わるほか、販売促進業務、商品管理業務を行う。2013 年より日本照明家協会中央講座講師を務めている。

劇場等演出空間の運用および安全に関するガイドラインについて

講師 小川 幹雄

「劇場等演出空間運用基準協議会」（基準協）では2017年11月、『劇場等演出空間の運用および安全に関するガイドライン ver.3 [2017] —公演に携わるすべての人々に』を発行した。これは、舞台技術や公演に関わる16団体が2007年から内容を検討し、改訂を重ねてきたもので、今回で3回目の改訂となった。

ガイドラインでは、公演制作における多様な人々が分担してつくり上げる安全衛生管理体制の内容と、公演制作におけるそれぞれの役割、責任との関係を明らかにしている。また、公演制作過程を6つの段階（企画、公演準備、搬入・仕込み、舞台稽古、公演、解体・搬出）に分け、安全作業について言及し、「安全作業のための共通注意事項」23項目を配し、安全への注意喚起を確かなものにし、6段階のそれぞれの工程において参加するスタッフが行わなければならない事項も整理されている。そのほか、危機管理、舞台技術設備管理、関連法規や資格について網羅している。

講義では、専門技術者と制作者、劇場の設置者または運営者を対象に、より「安全」に重点を置いた今回の改訂ポイントを中心に、初めて読む人にもわかりやすく紹介・解説を行った。



小川 幹雄氏



『劇場等演出空間の運用
および安全に関するガ
イドライン ver.3 [2017]
—公演に携わるすべ
ての人々に』
劇場等演出空間運用基
準協議会
2017年11月1日発行



小川 幹雄（おがわみきお）

（公社）全国公立文化施設協会アドバイザー、（一社）日本舞台監督協会理事長、（一社）文化庁芸術家在外研修員の会理事長、劇場芸術国際組織日本センター（OISTAT）副会長、（公社）劇場演出空間技術協会（JATET）執行理事

ロンドン大学大学院修士課程修了 MA。文化庁芸術家海外研修派遣英国招聘留学。ロイヤル・シェイクスピア・カンパニー、ロイヤル・ナショナル・シアターにて研修。「国際交流基金主催日本三大芸能による俊寛欧州公演」「歌舞伎版ハムレット英国公演」等、海外公演、全国公演を含め、演劇、ミュージカル、伝統芸能、コンサート等、幅広い分野において舞台監督を務める。新国立劇場では舞台技術部で技術マネジメントのヘッド、総務部で国際連携協力室長を歴任し、オペラ、バレエ、ダンス、演劇、ミュージカル等、現代舞台芸術全般に携わる。米国北東部劇場研修コーディネーター、インドネシア教育文化省招聘全国劇場技術者指導、早稲田大学講師、日本大学講師。著書に『舞台監督』『岸田國土の世界（共著）』など。

舞台技術（創造）の動向

①照明

コーディネーター 鈴木輝一
講師 大石真一郎

近年の舞台照明の動向で特徴的なものとして、光源のLED化をはじめ、制御信号のネットワーク化、分散型（移動型）調光器の導入などが挙げられる。講義では照明設備におけるネットワークと移動型（分散型）調光器について、KAATでの導入例に則し、その役割と課題を詳しく解説したのち、LED光源について考察した。省エネ（ランニングコストの軽減）、長寿命（メンテナンスの簡易化）、熱が出ない（火災事故の防止）といったメリットがあり、機材性能も日々進化しているLED光源であるが、常設機材として普及が進んでいない要因は何なのか。照明表現にとって光源は財産であり、それぞれの光源にしかできない表現があるという大石氏。舞台照明家、施設運営側という二つの立場から、劇場・ホールの舞台照明インフラが過渡期にある現在、施設側のスタッフは何を考え、どう対応するかを提示した。



大石真一郎氏



KAAT 神奈川芸術劇場プロデュース『夢の劇』（2016）撮影：二石友希



KAAT で使用している移動型（分散型）調光器

鈴木輝一（すずきてるかず）

（株）ピー・フォー代表取締役 （公社）全国公立文化施設協会アドバイザー

大学在学中に早稲田小劇場（現劇団 SCOT）創立に参加し、役者・舞台デザイン・演出など演劇活動に携わる。（株）サウンドクラフト（現エス・シー・アライアンス）入社後、スタジオワークやPAなど音響の業務に幅広く従事、2012年まで同社代表を務める。日本武道館の音響設計やBunkamura、新神戸オリエンタル劇場・能登演劇堂など、数十に及ぶ劇場・ホールの基本構想・施設計画・音響、演出設備設計を担当・参画。博物館・テーマパーク・大規模商業設備などにおける演出空間の創造の様々な場でも活躍し、現在は演出空間の総合プロデューサーとしてソフトとハードが一体化した空間づくりを目指している。

大石真一郎（おおいし しんいちろう）

（公財）神奈川芸術文化財団 KAAT 神奈川芸術劇場 舞台技術課照明チーフ

（株）クリエイティブ・アート・シンクにて照明デザイナー・オペレーターとして活動後、2010年より神奈川県立県民ホール神奈川芸術劇場（KAAT）の開館準備に参画。開館より同劇場照明チーフ。劇場運営管理業務と並行してKAAT自主製作公演の照明デザインも手掛ける。KAATでの主な作品に、白井晃（KAAT芸術監督）演出『Lost Memory Theatre』『パール・ギュント』『夢の劇』『春のめざめ』、長塚圭史演出『作者を探す六人の登場人物』、三浦基演出（地点公演）『光のない。』など。

舞台技術（創造）の動向

② 音響

コーディネーター 間瀬 勝一
講師 石丸 耕一

文化庁が支援し、全国の劇場が共に作り上げる共同制作オペラ「シアターオペラシリーズ」。2009年から始まった世界レベルのオペラを創作するプロジェクトを例に、繊細な音響デザインの仕事を紹介。劇場法施行後の創造発信型公共劇場にデザイナー・オペレーターが劇場技術者として配置される意義を考えた。

同プロジェクトは、オーケストラと合唱団は参加都市から参加し、オペラ専用劇場ではないホールでの上演もある。生の音を大切にし、美しい響きが決め手となるオペラの本質をふまえた数々の“手当て”が求められる。講義では、「音を拾うのではなく空間を拾う」感覚と技術、歌手から発せられる倍音成分の美しさや、子音と母音の扱い方の注意事項、演奏のひとつとしての効果音など、様々な理論と手法が公開された。ツアー6年間の実績から、各地で始まった技術交流・研修についても取り上げられた。



石丸 耕一氏



石丸氏作成の資料より

間瀬 勝一（ませしょういち）

小田原市文化庁文化政策課（公社）全国公立文化施設協会アドバイザー

1968年藤沢市民会館開館に伴い舞台スタッフとして入社。多様な市民企画公演や地域の高校演劇発表会に携わる。ホールの運営管理、舞台制作、舞台監督として、演劇、コンサート、現代舞踊、バレエ公演などに携わる。1993年から横浜市芸術文化振興財団、2005年から神奈川県逗子文化プラザホールアドバイザー、2009年から同ホール館長。2012年から小田原市文化庁文化政策課芸術文化担当課長・小田原市民会館館長を経て2016年4月から現職。

石丸 耕一（いしまる こういち）

東京芸術劇場舞台管理担当係長（音響統括）

ラジオドラマの脚本家、演出家としてスタートし、舞台音響に転向、辻亨二氏に師事。歌舞伎座及び新橋演舞場に常駐し、歌舞伎、日舞、新派、新国劇、商業演劇のオペレーターとして従事。新宿コマ劇場、明治座、日生劇場等、多くの舞台公演にも携わる。1990年、1992年、元ポリショイ劇場芸術監督ボリス・ポクロフスキー氏にオペラの音響を師事。音響デザイナーとして、東京芸術劇場での業務の傍ら、オペラ、ミュージカル、バレエ、演劇などのサウンドデザインや、映画の効果音制作、立体音響作品制作に携わる。日本舞台音響家協会理事、日本音響家協会会員 OI STAT 監事、昭和音楽大学非常勤講師。

舞台技術（創造）の動向

③美術

コーディネーター 小川 幹雄
講師 土屋 茂昭

劇団四季制作の舞台美術を数多く手がけ、独立後もストレートプレイ・ミュージカル・オペラ等の舞台美術家として幅広く活躍する舞台美術家・土屋茂昭氏が「私がつどり着く舞台美術の発見と発想」と題し、創作のプロセスを語った。「空間」「時間」「人間」、その「間」を貫くドラマに寄り添い、包むのが舞台美術の役割と語る土屋氏。舞台装置が劇場に建て込まれ、上演の装置として機能する為には作品・劇場に関わる多くのスタッフと情報を共有していく必要がある。何が大切なのか、技術的な要素だけでなく舞台美術家が何を考え、どのような発見をして装置デザインにたどり着くのか。台本を読むところから始め、イメージを立ち上げ、演出や空間と対話していく過程や、デザインの必然性について、土屋氏の代表作を例に丹念に解説。また、舞台表現として欠かせない要素になってきたプロジェクションマッピングと舞台美術の関係性についての動向も併せて紹介した。



土屋 茂昭氏



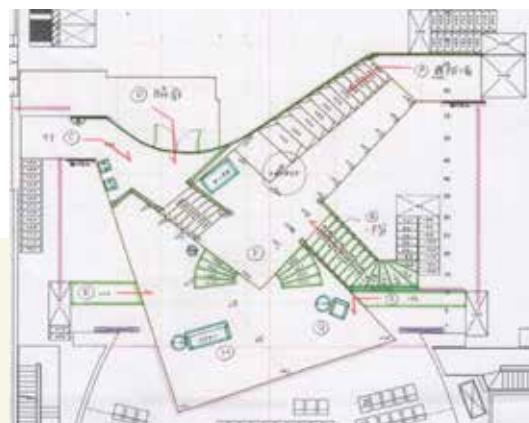
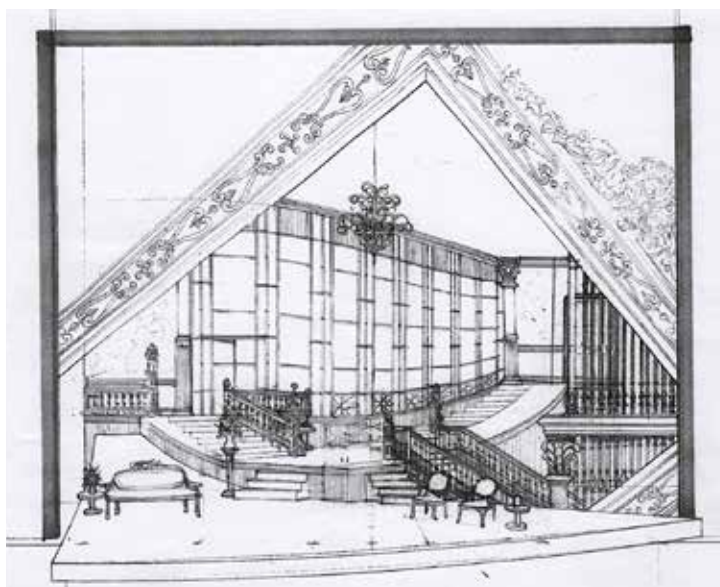
土屋 茂昭（つちやしげあき）

舞台美術家 日本舞台美術家協会副理事長 大阪芸術大学客員教授

1972年劇団四季舞台美術部、1983年美術部長。ミュージカル「CATS」の美術総合デザインを担う。以後、劇団四季制作のほぼ全作品の舞台美術や長野冬季オリンピック開閉会式美術スーパーバイザーなどを手掛ける。2000年独立してフリー。ストレートプレイ・ミュージカル・オペラ等の舞台美術家として活動。主な作品に「鹿鳴館」（四季自由劇場）「EVITA」「李香蘭」「ウエストサイド物語」（四季劇場他）、地球ゴージャス「The Love Bugs」（ACTシアター）、「ぼくに炎の戦車を」（ACTシアター / 韓国国立劇場）、「ハロドーリー」「ショウボート」（富山オーバードホール）、「チャンバラ」（ザ・スズナリ）、「誓いのコイン」（坊っちゃん劇場 / ロシア国立マールイ劇場）、オペラ「エレクトラ」（ザルツブルグ祝祭劇場）「トスカ」（藤原歌劇団 / 東京文化会館）など。



「EVITA」



「鹿鳴館」より
デザイン画と平面図、舞台美術



ビデオプロジェクターの解説と デモンストレーション

コーディネーター 鈴木 輝一
技術サポート 戸苅 隆之
内田 照久

舞台芸術における映像の役割とは何かを考え、改めて基礎知識を学ぶプログラム。近年、舞台技術に映像表現が取り入れられることが多くなっている。従来のように舞台美術の一部として使用される場合や、シアターマッピングと呼ばれるものまで実に様々である。個人レベルでさまざまな映像がつくられ、YouTube等SNSで共有され楽しめる現代にあって、舞台芸術ではどのように映像が取り入れられ、表現の幅と可能性を広げてきたか。さまざまな作品の上演でたどった。

また、残像効果といった人間の視覚の性質についてや、映像の指標である「明るさ」や「解像度」「面比率（アスペクト比）」などの違いをスクリーンで体感。CRT方式（ブラウン管）、液晶方式、DLP方式等、ビデオプロジェクターの種類と方式についての解説も行われた。

多くの劇場では、映画上映会等に使用する35mm映写機が映写室にあるものの、使用頻度は下がっているという。たとえば住民主体の公演に利用するなど、映像を使った表現の可能性について考えるきっかけにもなる講座となった。



鈴木 輝一氏



戸苅 隆之氏

戸苅 隆之（とがり たかゆき）

（株）エヌジーシーエンタープライズビジュアル事業部課長
名古屋電気通信工学院卒業、1992年日商エレクトロニクス（株）に入社。2013年より（株）エヌジーシーに転籍し、Christie Digital Systemsの前身Electrohomeのプロジェクターのエンジニアとして携わる。現在プロジェクター、VRのシステムエンジニアとして設計及び製品サポートを担当している。

内田 照久（うちだてるひさ）

（株）エス・シー・アライアンスメディアエンターテインメント社
COO

1970年生。1994年よりRDS（株）にてPIGIを担当。2002年からETC PIGI JAPON社にてマッピング業務を開始し、2008年よりエス・シー・アライアンス。テクニカルプロデューサーの主な実績に2012年東京駅プロジェクションマッピング「TOKYO STATION VISION」、2016年紅白歌合戦「都庁前中継・椎名林檎・TOKIO」など。



内田 照久氏



最新のプロジェクターを用いて、映像の「明るさ」や「解像度」「面比率（アスペクト比）」等、その違いをスクリーンで体感。一見わかりにくい差も、ステージ上で近くから見て確認することができた。



施設見学会

メディキット県民文化センター
(宮崎県立芸術劇場)

メディキット県民文化センターは、宮崎県置県 100 年記念事業として平成 5（1993）年に開館。施設見学会では、演劇ホールの舞台上（写真1）から、16 部屋の楽屋が並ぶ長い廊下を通り、アイザックスターンホールへ（写真2、3）。パイプオルガンのミニレクチャーと演奏を鑑賞し（写真4、5）、最後は今回の研修会のメイン会場であるイベントホールを見学した（写真6、7）。

アイザックスターンホール（コンサートホール）：1818 席

“音量感”と“残響感”を両立できる限界を追求した理想的シューボックススタイルのクラシック音楽専用ホール。パイプオルガンは須藤オルガン工房制作。国産最大級で 66 ストップ、総本数 4047 本のパイプからなり、外観は西都原古墳群（宮崎県西都市）から出土した「子持家型埴輪」（国重要文化財）をモチーフに制作されている。高千穂神楽で使用される篠笛の音色を取り入れているのが特徴。

演劇ホール：1112 席

舞台から客席最後部までの距離は 27.5 メートルと、臨場感あふれる鑑賞の空間を実現。美術バトン 20 本、ライトブリッジ、音響反射板、オーケストラピット、小迫り、花道などの設備を備えた多目的ホール。緞帳は宮崎県出身の前衛画家、瑛九の代表作「田園B」。故郷を懐かしんで宮崎の大地や太陽などの印象を描いたといわれる。

イベントホール：300 席

音楽、演劇、舞踊など多様な利用形態に対応するため、平土間をはじめ、エンド、スラスト、センターステージなど自由に設定できる多目的小ホール。



1



2

3



4



5



6



7

意見交換会・まとめ

コーディネーター 間瀬 勝一
 講師 小川 幹雄
 草加 叔也
 鈴木 輝一

前半ではプログラムをコーディネートした小川氏、草加氏、鈴木氏が各講座の振り返りと総括を行い、併せて伝えきれなかったことや事前アンケートの質問に対して意見を述べた。

後半では、特定天井の改修に関する事など、アンケートで多く寄せられた質問を取り上げ、さらに深く掘り下げていった。

公立文化施設には、設置者の定めた使命（ミッション）があり、効果的にミッションを達成するための専門人材として、舞台技術者が配置されている。ハードの管理だけでなく、地域の文化芸術活動の発展に寄与し、近年は作品づくりに参加できる技術と感性が求められている。今回のテーマである舞台照明・舞台音響の最新動向を知ることは、作品を創造するための基礎であり、直接的、間接的に日常業務に役立つことだろう。

私たち劇場付き舞台技術者には、専門人材としてハコを管理するだけでなく、舞台表現を理解し、利用者の創造した「表現を鑑賞者に届ける」ことが求められている。劇場技術者として多様な表現ジャンルを理解できる知識と経験を重ね、的確にアドバイスすることができる必要がある。障害者差別解消法が施行され、すべての市民に、障害者や高齢者など多様な利用者に対応できる認識をもつことも求められている。

劇場・音楽堂等の施設間で情報交換を重ね、利用者サービスの向上を目指し、市民に信頼される人材となり、併せて設置自治体に政策提言が出来る専門人材となるべきではないか。舞台表現をお客様にどのように届けるかに主眼を置くための意識改革が必要ではないかという間瀬氏からの話で締めくくられた。



間瀬 勝一氏



小川 幹雄氏



草加 叔也氏



鈴木 輝一氏



開講式／閉講式

開講式



(公社) 全国公立文化施設協会
専務理事
松本 辰明氏



(公財) 宮崎県立芸術劇場
常務理事 兼 副館長
福田 裕幸氏

閉講式



(公社) 全国公立文化施設協会アドバイザー
間瀬 勝一氏

会場風景



Seminar for Theater Technicians



文化庁委託事業

平成 29 年度 劇場・音楽堂等基盤整備事業

全国劇場・音楽堂等技術職員研修会 実施概要

発行日 平成 30 (2018) 年 3 月
研修会運営・実施 公益社団法人 全国公立文化施設協会
〒 104-0061
東京都中央区銀座 2-10-18 東京都中小企業会館 4 階
Tel. 03-5565-3030 Fax. 03-5565-3050
ホームページ <http://www.zenkoubun.jp/>
E-mail bunka@zenkoubun.jp

編集・発行 株式会社 文化科学研究所
デザイン 小林健三 (ニコリデザイン)
印刷 有限会社 館プロ